

取組事例の紹介 ⑥



長野県教育委員会事務局教学指導課心の支援室

市内中学生が連携していじめの問題を考える

S市教育委員会では、市内校長会・教頭会において、学校が整備しているいじめ対策委員会の機能の活性化や、いじめ対応マニュアルの確認徹底を指示してきました。また、大人がすべき学習環境整備や、いじめ対応策の重要性とともに、子どもたち自らの正義感や倫理観、情熱といった心の力・エネルギーこそがいじめ根絶の力になることを期待し、具体的な活動に結びつけてきました。

市内中学校生徒会の連携しいじめ根絶にむけた取組、各小中学校での取組は、1月に「青少年市民フォーラム」で発表され、広く市民がいじめ問題を考えるムーブメントを起こそうとしています。

今回は、S市内4中学校生徒会による「S市中学生 未来創造宣言」の活動を紹介します。

中学生の力を信じて

8月末、S市役所に集まった市内4中学校の生徒会代表に、教育長から、いじめ問題への思いや中学生として取組めること、使命、期待感を語り、中学生がいじめ問題解決のために立ち上がってくれるように呼びかけました。中学生の反応はすばらしく、活動への強い意欲を感じたということです。教育長は、「自分たちの問題として何かしていきたい」と心の中に強い思いをもっていた中学生にほんの少しきっかけを与えたかったと語られました。

この活動のポイントを教育長からお話いただきました。

- ① 子どもたちの本来もっている正義感、倫理観、自浄力、不正への怒りや純粋な思いこそ、いじめ根絶への力となる。
- ② いじめ問題を注意できなかった児童生徒の嘆き、助けてあげられなかったことを悔いる子どもたちの声なき声を見える声にしていく必要がある。
- ③ 「言葉」のもつ強いエネルギーを大事にし、言葉にすることによって、自分のこととしていじめ問題に取り組んでいくという一人一人の自覚を促し、実践への意欲を高める。
- ④ いじめに立ち向かい、撲滅していこうとする意思をもった仲間の一員であることを児童生徒が実感する。
- ⑤ 子どもたちの真剣な声を大人が本気で受け止め、ともに歩む決意を高める。

「S市中学生 未来創造宣言」策定に向けて

各中学校では、人権集会などの活動、文化祭における「いじめ問題、いじめ撲滅の活動」に向けた企画や意見発表会などに独自に取り組むとともに、各学校の「人権宣言（仮称）」にまとめて発信することや、それらを持ち寄って市内全中学校の統一した「S市いじめ撲滅人権宣言（仮称）」にまとめて行くことを確認しました。また、近隣の小学校も巻き込んで行くことや、発表を通して市民にも発信していくことを確認しました。

以下は、各中学校生徒会の代表者が集まり、「未来創造宣言」の策定に取り組んだ概要です。

『S市中学生 未来創造宣言』に向けて

——四中学校の生徒会を代表して14名が話し合いを重ねてきました——

8/30(木)※S市役所

スタートの会

☆各中学校でのいじめ撲滅についての取り組みや、文化祭での発表等について情報交換をしました。
☆教育長さんから「いじめ撲滅を目指して各中学校生徒会では、それぞれ工夫して取り組んでいると聞きます。ぜひ、四つの中学校がいじめをなくすために共同して行動してみましょう。」とのお話しをお聞きしました。私たちは、各中学校で生徒会が中心になっていじめ撲滅に本気で取り組み、その成果や思いを共同宣言にまとめ、発表しようと約束しました。

☆各中学校で「いじめをなくし、人権を大切にしよう」と計画を立てて取り組みました。特に、9月の文化祭では、全校に呼びかけました。この各中学校の取り組みについてお互いに情報交換をして、自分の学校の取り組みの参考にしました。

11/20(火)※A中学校

生徒会代表打合せ会①

☆各校のいじめ撲滅に向けての取り組みや、各校でつくった宣言文について情報交換をしました。宣言から、各中学校の生徒会の熱き思いや真剣な取り組みを感じました。



☆各校の宣言文に書かれている内容・願いを、三つの小グループでKJ法を使ってまとめ、宣言に盛り込みたい内容を活発に話し合いました。みんな話し合うといろいろなアイデアが浮かびました。



11/27(火)※A中学校

生徒会代表打合せ会②

☆前回、三つの小グループで考えた宣言案を比較しながら、各校の願いを盛り込んでいくにはどうしたらいいか悩みながら討議し、五つの条文にしぼりました。
☆どのような文体、語尾、書き方にしたら自分たちの決意を伝えられるか、宣言のタイトルをどうするか、前文をどう書くか等考え、ようやく決定しました。
※「自分たちの決意を示し、小学生にもしっかりと伝えるためには、語尾は『しよう』という呼びかけよりも、『ます』と付け、『私たちは』と主語を入れよう。」などの意見も出ました。



☆その後、さらに条文、前文等の修正点を連絡し合ってねり上げ、各校で発表資料も作成しました。

そして、12/7(金)

『S市中学生 未来創造宣言』発表会

※S市文化センター

今、私たちはこう考えます。

「いじめをなくしたい」と願って取り組み、宣言という決意をみんなで共有できました。「覚悟」ができました。宣言をつくって終わりではありません。地道に実行していくこと、私たちの思いを広げていくことを続けていきたいです。誰もが幸せな未来を創造していきたいです。

タイトルの中に「S市中学生」とありますが、S市に住む中学生は、四中学校に通っている生徒だけではなく、すべての人が、宣言文の中にある「仲間」です。私たちは「仲間として認め合い」、「仲間を守ります。」

全国にも、S市にも、いじめ等が原因で悩んでいる人、苦しみを話せないでいる人たちがいます。その人たちに「宣言」に込めた私たちの思いを届け、元気づけたいです。「私たちは、誰もが笑顔で、安心して生活できる学校をつくりたいです。」と。

『S市中学生 未来創造宣言』

私たちは、「すべてのいじめをなくし、お互いの個性を尊重し合って、誰もが安心して生活できるような学校をつくりたい。」と願っています。これを実現するために、私たちは一人ひとりが自分と向き合って考え、クラスで語り合い、全校で話し合って思いを共有し、どう行動していくかを考えてきました。そして、それぞれの学校で大切にしていきたいことを、各学校の「宣言」としてまとめました。

さらに私たちは、「自分の学校だけでなく、S市のすべての人々の中に信頼と絆の輪を広げ、強い意志と勇気を持つ仲間を増やしたい。今だけでなく、これからの未来も幸せなものにしたい。」と願っています。

そこで、S市四中学校の生徒会が共同して決意を固め、広く伝えようと考え、「S市中学生 未来創造宣言」をつくりました。

私たちは、全力をあげてこの宣言に掲げた決意を行動で示し、実現していくことを誓います。

- 1 私たちは、誰もが笑顔で、楽しく、安心して生活できる学校をつくります。
- 2 私たちは、お互いの個性を尊重し、仲間として認め合い、信頼の輪を広げます。
- 3 私たちは、相手の気持ちを考え、思いやりの心を持って行動します。
- 4 私たちは、差別、偏見、仲間外し、悪口、からかい等のいじめを絶対に見逃しません。
- 5 私たちは、いじめをしない意志とさせない勇気を強く持って、仲間を守ります。

平成24年12月7日

S市 四中学校生徒会
(A中、B中、C中、D中)

A中学校の取組

市内4中学校の生徒会が連携して、いじめ根絶に向けた取組を展開して行く中で、各中学校では独自に、いじめ問題を考え、いじめ撲滅のための取組を進めました。A中学校生徒会では、生徒会長、校風委員長が全校に呼びかけ、「いじめ撲滅宣言」作成に全校で取組んでいきました。

文化祭 9. 22

意見発表会の最後に、生徒会長・校風委員長が全校に呼びかけ。

『意見発表の中にもあったように、いじめをなくすために、10月から全校で取組んでいきたい。』

○意見発表会から大事にしたいと感じた言葉

- ・いじめが起きたときにどうしていくか。
- ・いじめを防ぐ・起こさない
- ・人権の大切さ

後期人権旬間 10. 11~

校風委員会による人権アンケートの実施・人権講演会・いじめ撲滅宣言づくり

『秦健二さん 人権講演会』 10. 11

目的：いじめの現実に直面し、いじめをなくすことに真剣に向き合う気持ちをもつ。

秦健二さんの言葉

- ・「覚悟を決めて下さい。」
- ・「いじめに立ち向かう覚悟を持って下さい。」
- ・「誰もが誰かを傷つけている。これを受け止めること。立ち止まって考えること。謝ること。」
- ・「君たちが立ち上がらないと、いじめはなくなる。」
- ・「動けば変わる、動かなければ変わらない、君が動けば変わる。」
- ・「『（いじめは）駄目。（いじめは）やめなよ。』と言おう。」
- ・「『俺がついているよ。』と言おう」



『人権講演会感想発表』 10. 16

秦さんの講演会を聞いて「もう、いじめは絶対にしない」と覚悟を決めました。いじめている人を見かけたら、その場で注意するか、後で注意をして、そのいじめをやめさせたいです。とても貴重な講演会を聞くことができ、感謝しています。

校風委員会人権アンケート結果説明と今後の取組について 11. 12

提案：「いじめをなくすために、『クラスの宣言』を作り、それをまとめて、『全校の宣言』を作りたい。」

各学級での取組

『クラスのいじめ撲滅宣言を考える』10. 23~

いじめをなくすためにどうしていったらいいか考え、話し合う。クラスの願いを「クラスの宣言」としてつくる。あわせて、具体的な行動を決める。

《個人で》



《班で》

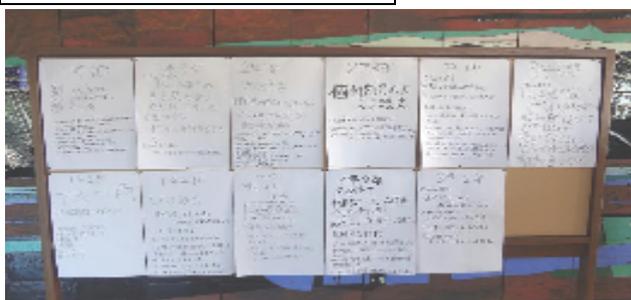


《まとめる》



『全クラスの宣言決定』11. 20

《全学級分を昇降口に掲示》



《各学級教室掲示》



学級の宣言から全校の宣言に

『校風委員会、本部会でクラスの宣言発表』 11. 12

クラスの宣言、取組み、決定の過程を発表

生徒会長： クラス宣言をもとに、本部会で話し合い、全校の宣言の原案を提案したい。



『本部会で全校宣言の話し合い』 11. 20～

大切にしたい言葉：「個性」「仲間」「勇気」

人権集会で話し合い、宣言を採択する

『第1回人権集会』 11. 19 クラスの宣言の発表、全校宣言の提案、全校での話し合い

全校宣言への意見：「全部の学級の思いを盛り込んでほしい。」

本部会：「意見を参考にもう一度検討し、再提案したい。」

各クラスの宣言への強い思いや願いを知ることができた集会になった。

意見が続出。本気で話し合うから意見がまとまらない。決定に至らず。

『第2回人権集会』 11. 27 各クラスに共通するキーワードを盛り込んだ宣言の再提案

宣言採択

生徒会長

A中学校 未来創造宣言
止める勇気 求める勇気 変わる勇気
・個性を尊重しよう ・仲間を大切にしよう

全校の気持ちが一つになった宣言ができた。宣言を意識して、全校が楽しく過ごせるようにしよう。

まとめ

文化祭で「いじめをなくすために10月から全校で取り組もう」と呼びかけて、いじめ撲滅宣言づくりがスタートしました。全校生徒の意見をまとめるのは、とても困難でした。しかし、全校の一人一人が真剣にいじめと向き合い考え、そしてクラスと全校の宣言を決めたこと、その過程がとても大切なことだと思いました。12月25日に行われた生徒総会では、来年度の生徒手帳に、A中学校「未来創造宣言」が掲載されることが決定しました。「誰もが笑顔で登校できる学校」をつくるために、これからの取り組みを大事にしていきたいと思います。

吹き抜けの昇降口に墨色鮮やかに揮毫された『A中学校 未来創造宣言』を見上げながら学校にうかがい、校長先生にお話をお聞きしました。

第1回目の「人権集会」では、各学級から自分の学級の宣言に対する強い思いが出され、なかなか生徒会本部会の提案が受け入れられなかったとお聞きしました。しかし、全校で建設的な話し合いができるという雰囲気がこのときに醸成されたのです。また、11月26日には校風委員が校区内の小学校を訪問し、各クラスの宣言や中学校での取組を紹介し、いじめを防ぐために小中学校で協力していこうと呼びかけ、小学校でいじめをなくするための取組を考えるきっかけとなったということです。自分たちの思いや取組に誇りをもち、堂々と発信していく姿に、信念をもって歩む若いエネルギーを感じました。

ふだんからA中学校では、強歩大会や体育祭などの行事を通して、生徒たちが達成感や自己肯定感を味わえるように工夫しているということでした。近く行われる校内合唱コンクールに向けて、練習に熱が入っている時期だとお聞きしました。他学年・学級と交流して練習したり、姉妹学級の歌に取り組んだりする中で、1・2年生が3年生の姿に憧れをもったり、3年生は1・2年生を温かく見守り、励ますことが伝統となっているのです。

もちろん今回の取組では、先生方にも生徒会活動や学級活動を通して生徒とともに作り上げてきたという思いがあります。生徒と教師が一つの目標に向かい、愛校心が培われてきたのです。

静かな校舎のどこからか、きれいな合唱のハーモニーが聴こえていました。